

新たな行政改革プランの策定について

1 ワークショップの実施について

(1) 新行革プランをみんなで考えるワークショップ

- ・氷見市の現状と新プランの策定方針を説明し、改革の3つの柱に沿って、幅広く意見等をいただいた。

(2) 職員ワークショップ

- ・改革の3つの柱について、職員アンケートを実施し、その結果を踏まえて、新プランでの実施を望むものについて、議論を行った。
- ・部課長グループと総括担当グループに分け、主査以下の出席は任意として、7月16日～25日に4回開催

2 ワークショップの結果について

改革の3つの柱について、多かった意見等を整理

(1) 経営的視点に立った市民本位の行政運営の推進

① 市民ニーズの捉え方

- ・市民ニーズの捉え方のルール・基準を作る。
- ・市民意向（満足度）調査を毎年度実施する。

② 仕組み・体制などの改善

- ・市民ニーズと事業にギャップがある。
 - ・P D C Aサイクルが回っていない。
 - ・施策の実施にスピード感が必要 → 意思決定の仕組みを再構築
- 目標管理・事務事業
評価制度の実施

③ 情報発信力の向上

- ・市内外への情報の伝え方の向上（わかりやすく、こまめに、的確に）

(2) 職員力・組織力の向上

① 職員数と業務量

- ・業務量に応じた職員数になっていない。
→ 市民ニーズの多様化や地方分権等により業務量が増加

② 目指すべき目標等の共有

- ・理念やビジョン、行動指針などの作成・浸透

③ 人材育成

- ・スペシャリストの育成
- ・庶務や会計事務などの基礎的事務能力の向上

④ 業務ごとのマニュアルの作成

- ・業務の質の低下を防ぎ、担当職員が不在時にも対応可能

(3) 財政健全性の確保

① 公共施設の維持管理

- ・ 公共施設のマネジメントが必要

② 歳出の見直し

- ・ スクラップ&ビルド・事務事業の見直し

③ 職員の意識

- ・ コスト意識の浸透・改善意欲の向上

④ 歳入の確保

- ・ 人口減少対策による減収抑制
- ・ 企業誘致（起業支援含む）・観光施策などによる増収
- ・ ふるさと納税の推進
- ・ 法定外目的税の研究

3 論点の整理

(1) 経営的視点に立った市民本位の行政運営の推進

- ① 市民ニーズの捉え方
- ② 仕組み・体制などの改善
- ③ 情報発信力の向上

(2) 職員力・組織力の向上

① 職員数と業務量

- ・業務量に応じた職員数になっていない。
→ 市民ニーズの多様化や地方分権等により業務量が増加

- 対応策案**
- ① 職員数を増やす。→ 財政健全化の視点
 - ② 業務量を減らす。→ 事務事業評価の実施
 - ③ 能力をアップする。→ 職員力・組織力の向上の成果

- ② 目指すべき目標等の共有
- ③ 人材育成
- ④ 業務ごとのマニュアルの作成

(3) 財政健全性の確保

- ① 公共施設の維持管理
- ② 歳出の見直し
- ③ 職員の意識
- ④ 歳入の確保



収支均衡がベース

4 新プランにおける目標管理すべき項目の整理

(1) 市税の現年度収納率

(2) 財政指標等

- ① 経常収支比率（新規）
- ② 実質公債費比率（新規）
- ③ 将来負担比率（新規）
- ④ 債務総額（公債費及び公債費に準ずる債務負担行為の残高）
- ⑤ 財政調整基金残高（新規）

(3) 職員数